

米子医療センター

【施設概要】

当院は、昭和 13 年に姫路陸軍病院皆生臨時分院として皆生(かいけ)温泉東海岸に創設されました。終戦により厚生省に移管し、昭和 21 年に国立鳥取病院皆生分院として再発足し、昭和 25 年に国立米子病院として独立しました。昭和 28 年に国立米子療養所となり、昭和 41 年に診療科と病床数が増え、再び国立米子病院へ改称されました。



昭和 46 年、現在地(米子市車尾)に移転し、平成 16 年に独立行政法人国立病院機構米子医療センターとして、新たなスタートを切りました。当院は、血液を含むがん医療と腎医療を中心に、当地での信頼を獲得してきました。現在は、超高齢化社会となり複数の生活習慣病や高齢者特有の疾患へも対応できる体制を整備し、地域医療支援に貢献しています。

【周辺環境】

米子市は鳥取県の西部に位置し、市域はほぼ平坦で、米子平野に日野川が流れています。南部は、大山(だいせん)の裾野として丘陵地になっており、北西部の弓ヶ浜半島からその山岳地帯を望むことができます。気候は、春から秋は晴れの日が多く、冬は曇りや雪、雨の日が多いです。年平均気温は 15.0℃と比較的温暖です。夏は暑いですが、熱帯夜は少なく、冬は最寒月平均気温が 4.4℃と日本海側気候の地域の中では、最も温暖な部類で過ごしやすいです。豪雪地帯に属しますが、県東部に比べて降雪量は少なく過去に、積雪が 1m を超えたことはありません。



江戸時代初期から商業都市として発展し、山陰両県の中央に位置する立地から、両県を統括する企業や機関が置かれるケースが多く、県庁所在地ではないが鳥取大学医学部附属病院や山陰放送(テレビ・ラジオ兼営局)などがある拠点都市となっています。

米子市に隣接する大山は、日本で3番目の国立公園となり、「日本名峰ランキング」でベスト3に選ばれました。大山の主峰・弥山（みせん）は標高1,709mで、中国地方最高峰です。春から夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪山と四季を通して、自然を存分に満喫できます。そして、その美しい姿が人々の心をとらえ続けています。大山は、米子方面（西側）から見ると、なだらかで富士山の姿のように見えることから「伯耆（ほうき）富士」とも呼ばれています。日本百名山や日本百景にも選定され、鳥取県のシンボルの一つとされています。また、山陰最大の温泉地である皆生温泉は、日本海に面して海に湯が湧き、トライアスロン日本発祥の地としても有名です。昭和56年8月20日に第一回大会が開催されてから、現在まで全日本トライアスロン皆生大会として開催され続けています。毎年全国各地から鉄人が集結し、過酷な熱いレースが繰り広げられています。

【放射線科について】

当院の放射線科は、放射線診断医1名、診療放射線技師7名、受付1名で業務を行っています。一般撮影、ポータブル撮影、骨密度測定、透視、CT、MRI、アンギオ、RI、放射線治療と幅広く稼働しています。2019年10月にアンギオ装置が更新し、X線検出感度の向上による被ばく線量の低減と、FPDの高画質化で安全で精度の高い検査、治療が可能となりました。また、地域の医療機関と連携し、設備の共同利用も積極的に行っています。